

## 山之口地区地域福祉活動計画

すべての住民が、いつまでも住み慣れた地域で豊かに生きがいを持って生活するために



山之口地区ふれあい大運動会

令和8年3月

《山之口地区地域福祉活動計画策定委員会の皆さん》



～これからの5年間を考える～

県陸上競技場の完成により、競技場を中心としたまちづくりが進み、地域の環境は大きく変化していきます。さらに、2027年には国スポ・障スポの開催が予定されており、競技場を核として地域全体の活気が一層高まることが期待されます。



このような変化の中においても、高齢者や支援を必要とする方々をはじめ、誰もが安心して暮らし続けられる地域であることが重要です。そのため、地区社協事業、いきいきサロン活動やこけない体操などを通じた地域の居場所づくりやつながりづくりを大切にしていきます。あわせて、関係機関や団体との連携を強化し、地域で支え合う仕組みを育みながら、継続的な地域福祉の推進に取り組んでまいります。

山之口地区地域福祉活動計画策定委員会  
委員長 有川 俊一郎

## 策定委員会の進め方

### 第1回

地域活動で感じた良い変化のエピソードを出し合い、大事にしてきた価値観を考えました。宮崎県山之口陸上競技場の完成が地域活性化の足掛かりになると期待を膨らませました。



### 第2回

1回目を出し合った全員のエピソードを深掘りし、日頃大切に思っている価値や意義をそれぞれの立場で話し合いました。



### 第3回

大事にしたい価値観をもとにつくられた行動指針と照らし合わせながら、これからの取り組みについて話し合いました。



### 第4回

それぞれの立場で「組織体制」「財源」「事務局機能」「拠点」の視点から考えました。今後の連携体制の強化が期待されます。



### 第5回

山之口地区社協設立当初の地域福祉活動計画から思いをそのままスローガンを決定「ここからが始まり」と力強い言葉を頂きました。



## 地区社協のあゆみ①（設立年月日、活動の経緯）

### 【歴史】

年月	内容
平成20年	山之口地区地域福祉計画推進委員会 発足 山之口地区地域福祉協議会を設立
平成21年	山之口地区社会福祉協議会に名称変更
平成22年	山之口地区社協だより「あじさい」第1号発行
平成27年	いきいきサロン立ち上げ（12サロン）
平成28年	ふれあい福祉祭り in 山之口 開催
令和元年	夏休みこども教室に名称変更 (山之口町合併前より親子ふれあい木工教室として実施)
令和4年	困りごとたすけあいボランティア事業開始
令和5年	シニア男性調理教室事業開始
令和6年	お茶飲み場「さちカフェ」事業開始
令和7年	オレンジカフェ「青空」（地区社協×包括）事業開始

### 【受賞歴】

都城市社会福祉協議会会長表彰（令和3年10月）

都城市長表彰（令和4年10月）

宮崎県社会福祉協議会会長表彰（令和5年11月）

### 【主な事業】

- ・夏休み子ども教室
- ・シニア男性調理教室
- ・いきいきサロン全体研修
- ・在宅介護者研修
- ・お茶飲み場「さちカフェ」
- ・山之口地区福祉映画祭（地区社協×まち協）
- ・山之口地区社協だより「あじさい」年2回発行
- ・オレンジカフェ「青空」（地区社協×包括）
- ・親子ふれあい工芸教室
- ・困りごとお助けボランティア事業
- ・6地域館長・民生委員合同研修
- ・地域の保健室&出張なんでも相談
- ・山之口地域住民美術作品展
- 他

### 【体制】

会長1名、副会長2名、事務局長1名、理事18名、福祉協力委員1名

### 【構成】

山之口地区自治公民館連絡協議会、山之口地区民生委員児童委員協議会、山之口地区ボランティア連絡協議会、山之口地区高齢者クラブ連絡協議会、山之口地区身体障害者福祉会、山之口地区校長会、あじさいの里、高齢者総合支援センターきりしま、やまのくち保育所、都城市山之口・高城地区地域包括支援センター、山之口地区生活支援コーディネーター、都城市山之口総合センターで構成されています。

## 地区社協のあゆみ②（トピック）

### 夏休みこども教室

山之口地区内の小学3年生以下を対象に、毎年ものづくり体験を実施しています。題材は役員で協議し、毎年工夫を重ねています。子どもたちからも好評で、楽しく学べる機会となっています。



### 男性調理教室

食生活改善推進員の協力のもと、山之口地区内で暮らす独居の男性を対象に実施しています。毎回楽しく料理を学び、「自宅でも作ってみます」との声も聞かれています。

### 困りごとお助けボランティア

地域内の空き家や高齢世帯、ゴミ屋敷等の課題のある世帯に対して、生活環境の悪化や近隣への影響を未然に防ぐことを目的として、世帯状況の把握および片付け等の支援を行っています。



### お茶飲み場「さちカフェ」

毎週火曜日の地区社協開設日に合わせて、コミュニティカフェを開催しています。相談しやすい環境づくりに努め、地域の居場所となっています。

# 創造の道すじ ～笑顔と安心を生み出す「好循環（サイクル）」～

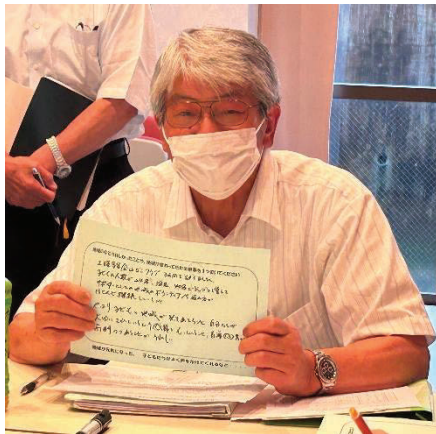
第5次地域福祉活動計画を策定するにあたり、全15地区で現状の「課題・願望」と未来への「想い」をシートに書き出しました。そこには現場のリアルな熱い想いが詰まっています。

## 1. 地区の全体スローガン：これから5年間の目指す地区全体の指針とは？

⇒第5回策定委員会（最終回）では、地区全体のスローガンを決めました。

## 2. 行動指針：地域での活動や取り組みを導く大事な価値観とは？

⇒第1回～2回策定委員会では、「最もすごいチェンジ」を出し合いました



**山之口②グループ(花木)**

**子どもへの愛情**

子どもの成長を見守る地域力  
子どもの見守り  
子どもへの気遣いが素晴らしい  
子どもをどのように育てていくかと  
いうしっかりとした視点を持っている  
子どもの気遣い  
子どもの成長  
子どもの居場所

**やまびこクラブ  
～山之口のあたたかさ～**

**エピソード**  
土曜学習会「やまびこクラブ」は、今年で3年目を迎えました。参加する子どもたちの数は年々増加しており、サポーターも15名の方が継続して関わってくださっています。地域が子どもたちに光を当て、「自分たちは大切にされている」という感覚を持っていることが、自尊感情の高まりにつながっていると感じており、大変うれしく思います

**人柄**  
人が人を呼ぶ  
人材がそろっている

**居場所の仲間**  
ボランティア精神  
地域ボランティア協力  
地域の人々をまとめる力に  
感動  
協力的  
つながり

**継続すること**  
問題点の共有化  
社会福祉協議会の支援

### ◆第5次都城市地域福祉活動計画「山之口地区地域福祉活動計画シート」（抜粋）

地区全体 スローガン	行動指針	活動・事業
すべての住民が、いつまでも住み慣れた地域で豊かに生きがいを 持って生活するために	みんなで支え合いながら、子どもから高齢者まで安心して暮らせ、 困ったときに気軽に相談できる、やさしさ とつながりのある地域に していきましょう。	<b>地域福祉施設意見交換会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の福祉施設、学校関係者、自治公民館長、民生委員</li> <li>・児童委員などと意見交換会を実施し姫城地区をより良くするための協議を実施</li> </ul>

これまでの活動を整理し、未来へ向かってどう進んでいくか、「その道すじ（ロジック）」を解説します。

### 3. 実現に向けて必要なこと：その価値観を大事に、実現に向けて必要なことは？

⇒第3回～4回策定委員会では、「これから取り組むこと」「何が整えば実現できるか」を話し合いました。

#### 【入り口（楽しさ・共感）：人が集まる】

多世代・笑顔・わくわく・サロン・顔見知りを増やす・参加へのハードルを下げる

↓ ここから信頼が生まれる ↓

#### 【深まり（信頼・支え合い）：相談できる】

ちょっとした困りごと・キャッチ・見守り・楽しい場でできた関係性から

↓ これが安心をつくる ↓

#### 【土 台（持続可能な仕組み）：無理なく続ける】

拠点・IT・自主財源

新「地区社協」創造への道すじ

#### 実現に向けて必要なこと

##### これから取り組むこと

##### 何が整えば実現できるか

目指す  
地区社協像

※これ以降を参照

##### 普及啓発活動の推進

- ・イベントを通して福祉なんでも相談を広める
- ・地区社協事業に楽しく参加できる雰囲気をつくり、口コミで広める

##### 相談体制と案内の整備

- ・関係機関との連携を強化し、つなぎ先に困らない体制を整える
- ・相談窓口や事業拠点の案内表示を分かりやすく整備する

##### ①【組織体制】誰が？

- ・地区社協、福祉施設、公民館長、民生委員、学生ボランティア

##### ②【財源】お金はどこから？

- ・地区社協、共同募金

##### ③【事務局機能】どのように？

相談内容の聞き取りだけでなく住民の話し相手にもなり、1対1で落ち着いて話せる場や仕組みを提供する。1対1で話せる場や仕組みについては、「各地域公民館の会議」で検討する。

##### ④【拠点】どこで？

- ・学校の空き教室、地区公民館

## 第5次都城市地域福祉活動計画の体系図

第5次都城市地域福祉活動計画 全体スローガン

笑顔でつながり 未来を綾なす 新しい地域

### 新「地区社協」創造

#### 3つの行動原則

1. 「ゴール」を目指す姿 笑顔が集まる、誰もが主役になれる居場所をつくる
2. 「エンジン」推進力 多様な力とつながり、広がる共感で地域を動かす
3. 「ベース基盤」 小さな「困った」を見逃さず、無理なく支える仕組みをつくる

#### 実現のための4つの創造

1. 組織体制：「固定化」から「チーム戦」へ
2. 財源：「依存」から「稼ぐ力・応援される力」へ
3. 事務局機能：「事務処理」から「つなぎ役」へ
4. 拠点：「会議室」から「あたたかい居場所」へ

### 15地区地域福祉活動計画

姫 城／「優気」をもってふれあって 学びあってつながろう 姫城の宝たち ～姫 LOVE 増殖中！～

妻ヶ丘／笑顔で声かけ 未来へつなぐ 妻ヶ丘

小松原／世代をこえて 笑顔でつながる 小松原

祝 吉／未来につなぐ笑顔のまち祝吉 ～ありがとうをいっぱい咲かせよう～

五十市／誰もが まんなか 活気あふれる いそいち

横 市／みんながつながる横一愛

沖 水／ささえ愛 笑顔でつながる 沖水の和

志和池／みんなの笑顔でつながる未来へ ほっぶ すてっぶ 志和（しゅわ）っ池（ち）！

庄 内／地域を愛し、お互いさまの心でみんなが支え合うまち・庄内

西 岳／西岳1チーム お互いさまで、ほっこりにっこり ～ぼちぼちやっみろかい～

中 郷／みんな元気 笑顔あふれる なかんごう ～こども・未来・絆～

山之口／すべての住民が、いつまでも住み慣れた地域で豊かに生きがいを持って生活するために

高 城／未来へつながる ほっこり思いやりのまち高城

山 田／ふれあい、ささえあい、つながりあう 福祉のまちづくり

高 崎／支えあい未来につながる★きりり★高崎

### 都城市社協経営基盤強化計画

1. 組織・人材

2. 財政

3. 事業

4. 拠点

## MSCのエピソード

○活動を通じて地域でおこった変化「良かったこと」「うれしかったこと」

※Most Significant Change (MSC) ≡ 「最もすごいチェンジ」



総合支所、駅、陸上競技場などの施設が整えられその中で地域住民が地域良くしたいと考えることが増えてきたこと



班長を1年間実施していく中で楽しい気持ちや達成感を味わった。  
思いやりの子持ちや協力の大切さを痛感したこと



連携 障害福祉から介護へ



約50年ぶりに帰ってきたが地域の人があたたかく向かえてくれた



山之口中学校の生徒と民生委員と一緒に楽しく「花配り活動」ができたこと

ほかにもこんな素敵なエピソードがありました！

○毎朝の小学校見守りで子どもたちと協力員との会話が多くなるようになった。

○いこいの広場開設によりお年寄りのふれあいが可能になった。

○ものづくりでの小学生の作品、大人のランプシェードづくりで多くの人が喜ばれた。

○30人のボランティアでゴミで困っている人の家の清掃で喜ばれた。

○土曜学習会「やまびこクラブ」は、今年で3年目を迎えました。参加する子どもたちの数は年々増加しており、サポーターも15名の方が継続して関わってくださっています。地域が子どもたちに光を当て、「自分たちは大切にされている」という感覚を持っていることが、自尊感情の高まりにつながっていると感じており、大変うれしく思います。

○こけない体操に参加されている方が、「ここでみんなとおしゃべりするのが楽しみ」といって来てうれしく思いました。

行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p>みんなで支え合いながら、子どもから高齢者まで安心して暮らせ、困ったときに気軽に相談できる、やさしさとつながりのある地域にしていきたいと思います。</p>	<p>①<u>ふくしなんでも相談</u>                      ・シルバーヤングふれあいの館                      (週1回：火曜日)                      ・出張相談                      ・コミュニティカフェ「さちカフェ」</p>	<p><b>普及啓発活動の推進</b>                      ・イベントを通して福祉なんでも相談を広める                      ・地区社協事業に楽しく参加できる雰囲気をつくり、口コミで広める</p> <p><b>相談体制と案内の整備</b>                      ・関係機関との連携を強化し、つなぎ先に困らない体制を整える                      ・相談窓口や事業拠点の案内表示を分かりやすく整備する</p>
<p>交流や文化活動を通して子どもの成長を見守り、伝統や文化を大切にしながら、アートや人とのつながりで輪が広がる温かい地域をつくりましょう。</p>	<p>②<u>こども健全育成事業</u>                      ・夏休みこども教室                      ・親子ふれあい工芸教室</p>	<p><b>地域資源を活用した交流</b>                      ・保育所と地域住民の交流（陶芸・かご編みなど）を推進                      ・移住者や新しい地域人材も活用する</p> <p><b>伝統文化と世代間交流</b>                      ・伝統文化の継承者情報を共有し、後継者育成につなげる                      ・こども健全育成活動で昔遊びを取り入れ、世代間交流を図る</p>

# いつまでも住み慣れた地域で

## 豊かに生きがいを持って生活するために」

<p style="text-align: center;"><b>実現するために必要なこと</b></p> <p style="text-align: center;"><b>①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>目指す地区社協像</b></p>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域公民館の会議に民生委員が2か月に1回参加し、地域の課題や支援状況について互いに情報を共有する。</li> <li>・地区社協役員会で、地区社協と包括支援センターが必要に応じて生活支援会議を開き、事例に応じて担当民生委員や公民館長にも参加してもらう。</li> <li>・コミュニティカフェ「さちカフェ」や出張相談の場で、学生ボランティアを講師として招き、高齢者向けにスマホやPCの使い方を学ぶ教室を開催する。</li> <li>・地区社協が、公民館等に「ふくしなんでも相談」の相談内容の事例を掲示し、相談方法を分かりやすく住民に伝える。また、広報紙やポスターのデザインは、学生や絵の得意な地域住民に依頼して制作する。</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・忌明け寄付を地区社協で受け入れるため広報等で周知活動を行う。</li> <li>・赤い羽根共同募金を活用する。</li> </ul> <p><b>【事務局機能・拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の空き教室や公民館を「ふくしなんでも相談」の拠点として活用し、相談内容の聞き取りだけでなく住民の話し相手にもなり、1対1で落ち着いた話せる場や仕組みを提供する。1対1で話せる場や仕組みについては、「各地域公民館の会議」で検討する。</li> </ul>	<p><b>①組織体制:「固定化」から「チーム戦」へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人脈を活かし、幅広い人に声掛けしながら年齢層の厚い組織体制にする</li> <li>・地区社協担当者の増員</li> <li>・学校関係者の役員・理事参入</li> <li>・関係機関とつながりのある地域</li> <li>・専用事務室の確保</li> <li>・有給職員の雇用</li> <li>・法人格の取得（NPO法人、一般社団法人等）</li> <li>・策定委員会のメンバーを構成メンバーにする</li> <li>・有償ボランティアの拡大</li> <li>・地元企業の参画</li> <li>・動きやすいポストづくり</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公民館を中心に、6地域の公民館単位で多国籍の住民や移住者を対象に交流事業を実施し、住民同士のつながりを深める機会を提供する。</li> <li>・高齢者や障害者との関係づくりを進めるため、高齢者施設、学校、公民館を会場に交流活動を行い、小・中学校と連携して世代間交流を実施するとともに地域の人材資源を活用した制作活動を通じて、世代間交流に参加しやすい機会をつくる。</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・忌明け寄付を地区社協で受け入れるため広報等で周知活動を行う。</li> <li>・赤い羽根共同募金を活用する。</li> </ul> <p><b>【事務局機能・拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畑や空き地を活用する。</li> <li>・公民館を活用する。</li> <li>・学校の空き教室を活用する。</li> </ul>	

行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p>世代や国籍を超えて、安心して暮らせるよう、みんなで支え合い、地域力を強化しましょう。</p>	<p>③住民力アップ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6地域公民館長及び民児協共同研修会</li> <li>・在宅介護者介護体験研修</li> <li>・いきいきサロン活動リーダー研修</li> </ul>	<p>情報共有と信頼関係づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員と自治公民館長の情報共有会を年2回実施</li> <li>・公民館長会にて自治公民館長、民生委員との意見交換を実施</li> <li>・毎月顔を合わせることで信頼関係を築く</li> </ul> <p>研修と事業連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に沿った研修を開催</li> <li>・オレンジカフェ、さちカフェなど他事業との連携を図る</li> </ul>
<p>みんなが集まりやすい居場所をつくり、交流を増やせる地域にしましょう。</p>	<p>④活動助成金事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきサロン活動助成金</li> <li>・学校花いっぱい活動支援</li> <li>・6地域敬老大会助成金</li> </ul>	<p>新たな財源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・忌明寄付や地域活性化助成金を地区社協運営に活用</li> </ul> <p>事業連携と創意工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会とのタイアップを推進</li> <li>・財源不足を補うため知恵と人材を活かす取り組み</li> </ul>
<p>地域の誰もが安心して集い、互いに支え合いながら、やさしさと笑顔あふれる交流が生まれる地域にしましょう。</p>	<p>⑤地域交流推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉映画祭</li> <li>・いきいきサロン活動支援</li> <li>・コミュニティカフェ「さちカフェ」</li> <li>・地域住民作品展</li> </ul>	<p>交流の場の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さちカフェやいきいきサロンを全域に推進</li> <li>・保育園児や地域住民との交流を行う</li> </ul> <p>情報発信と企画の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催事業の周知方法や開催時期、送迎バス活用を図る</li> <li>・IT関連など時代に合ったテーマを企画</li> </ul>

<p style="text-align: center;"><b>実現するために必要なこと</b></p> <p style="text-align: center;"><b>①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>目指す地区社協像</b></p>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域公民館の会議に民生委員が2か月に1回参加し、地域の課題や支援状況について互いに情報を共有する。</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協連協の助成金を活用する。</li> <li>・忌明け寄付を地区社協で受け入れるため広報等で周知活動を行う。</li> <li>・赤い羽根共同募金を活用する。</li> </ul> <p><b>【事務局機能・拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の空き教室を活用する。</li> <li>・地区社協、自公連、民児協が合同で集まり、研修内容について協議する。</li> </ul>	<p>②財源：「依存」から「稼ぐ力・応援される力」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人サポーターの募集</li> <li>・協賛企業（スポンサー）の発掘</li> <li>・自主財源確保のためのツール開発</li> <li>・社協のファンを増やして財源確保</li> <li>・サロン等のイベント参加費</li> <li>・地区社協の宝くじ（抽選方式の協賛）</li> <li>・人材を活かした収益事業（演奏、手品）</li> <li>・物品販売</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まち協地域活性化事業との共催を行う。</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いきいきサロン助成金の上限見直しをする。</li> <li>・助成金の使途について、学校と地域で話し合い、花いっぱい活動に関して苗ではなく種から育てる方法を提案する。</li> <li>・忌明け寄付を地区社協で受け入れるため広報等で周知活動を行う。</li> <li>・赤い羽根共同募金を活用する。</li> <li>・企業からの協賛金を募集する。</li> <li>・まち協の地域活性化基金を活用する。</li> </ul> <p><b>【事務局機能・拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報や拠点で寄付者への周知を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所、物の貸し出し</li> <li>・有償サービスの導入</li> <li>・忌明け寄付の活用</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まち協地域活性化事業との共催を行う。</li> <li>・生活支援コーディネーターや民生委員の体制を拡充し、地域交流の場での相談が利用しやすい体制を整備する。</li> <li>・地域の団体と連携、協力しコラボ企画を通じて世代間や住民同士が交流できる場を拡充する。</li> <li>・ITに強い世代からの協力を得て、地域事業に参加してもらう。</li> <li>・地域公民館の住民交流活動に対して、協力、支援をする。</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・忌明け寄付を地区社協で受け入れるため広報等で周知活動を行う。</li> <li>・赤い羽根共同募金を活用する</li> <li>・企業からの協賛金を募集する。</li> </ul> <p><b>【事務局機能・拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスを活用し拠点までの移動支援を行う。</li> <li>・公民館、学校の空き教室、弥五郎どんの館、人形の館を事業の拠点として活用する。</li> </ul>	

行動指針	現状	これから取り組むこと (令和8年度～令和12年度)
<p>シニア男性が自立の喜びを感じながら、食改善や調理を通して交流できる居場所をつくり、互いに頼り合える地域にしましょう。</p>	<p>⑥シニア男性調理教室 地区社協で開催 (年1回)</p>	<p>参加しやすい教室の実施 ・年齢を問わず参加できる男性調理教室を開催</p> <p>男性サロンの検討 ・男性も集える交流事業の場所づくりを検討する。</p>
<p>みんなで助け合い、高齢者や障害のある方も安心して暮らせる地域にしましょう。</p>	<p>⑦困りごとおたすけボランティア活動事業 地区社協で開催 (年1回)</p>	<p>地域住民の特技を活かす ・特技を持つ住民をボランティア人材バンクとして登録し活躍の場を広げる ・壮年世代とのつながりを強化</p> <p>若い世代の参加促進 ・民生委員の「できることアンケート」を活用 ・ボランティア連絡協議会や地域団体との連携を進める</p>
<p>地域に密着した親しみやすい情報発信を心がけて継続して発信できる仕組みづくりをしましょう。</p>	<p>⑧広報の取組み 地区社協だより「あじさい」の発行 (年2回)</p>	<p>タイムリーな情報発信 ・役員会などの内容も含め、情報を迅速に共有 ・紙とデジタルを組み合わせたハイブリッド型の広報体制</p> <p>公民館未加入世帯への周知 ・民生委員の訪問時に広報を届ける ・広報紙に「ごーごーちいき」のQRコードを掲載しデジタル発信と連動</p>

<p style="text-align: center;"><b>実現するために必要なこと</b></p> <p style="text-align: center;"><b>①組織体制、②財源、③事務局機能、④拠点</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>目指す地区社協像</b></p>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活改善推進委員、高齢者クラブ、いきいきサロン、学生ボランティアと連携・協力して取り組む。</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加費を徴収する。</li> <li>・忌明け寄付を地区社協で受け入れるため広報等で周知活動を行う。</li> <li>・赤い羽根共同募金を活用する</li> <li>・企業からの協賛金、食材提供協力を募集する。</li> </ul> <p><b>【事務局機能・拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山之口総合センター、学校の調理室、弥五郎どんの館を事業の拠点として活用し、参加者が集まりやすい環境を整える。</li> </ul>	<p><b>③事務局機能：「事務局処理」から「つなぎ役」へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局員の配置</li> <li>・相談窓口の多機能化（専門相談会、サロン実施）</li> <li>・週5日開設</li> <li>・地区社協にボランティアコーディネーターの配置</li> <li>・地区担当2人体制</li> <li>・ICTの活用（報告書類の簡略化、デジタル化）</li> <li>・いろいろな事業で企業とコラボ</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生から高齢者までの幅広い世代を対象に、「できることアンケート」を実施する。</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館加入者は無償ボランティア、未加入者は有償ボランティアとする。</li> <li>・忌明け寄付を地区社協で受け入れるため広報等で周知活動を行う。</li> <li>・赤い羽根共同募金を活用する</li> <li>・企業からの協賛金、ゴミ袋の提供協力を募集する。</li> </ul> <p><b>【事務局機能・拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア登録後にLINEグループを作成し、ニーズが発生した際には全員に共有・呼びかけを行う。</li> <li>・情報収集を地区社協で行い、各地区公民館に依頼し実施する。</li> </ul>	<p><b>④拠点：「会議室」から「あたたかい居場所」へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専用机を地区公民館内に配置する</li> <li>・子どもの居場所の開設</li> <li>・空き家・空き教室を活用した居場所づくり</li> <li>・1地区に複数（2つ以上）の拠点化</li> <li>・小学校区でのミニサテライト</li> <li>・なんでも相談室を雑談室に</li> </ul>
<p><b>【組織体制】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自治公民館の会議に民生委員が2か月に1回参加し、地域の課題や支援状況について共有された情報をもとに、広報紙の取り組みとして連携して進める。</li> <li>・地区社協が、公民館等に「ふくしなんでも相談」の相談内容の事例を掲示し、相談方法を分かりやすく住民に伝える。また、広報紙やポスターのデザインは、学生や絵の得意な地域住民に依頼して制作する。</li> </ul> <p><b>【財源】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・忌明け寄付を地区社協で受け入れるため広報等で周知活動を行う。</li> <li>・赤い羽根共同募金を活用する</li> <li>・企業からの協賛金を募集する。</li> <li>・紙質を見直すことでコストを抑え、発行部数を増やす。</li> <li>・SNSを活用し、効果的な広報を行う。</li> </ul> <p><b>【事務局機能・拠点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、総合センター、公民館、弥五郎どんの館、人形の館など、地域の拠点に広報紙を配布、設置する</li> <li>・ITに強い世代からの協力を得てSNSを活用し、タイムリーな情報発信を行う。</li> </ul>	<p><b>④拠点：「会議室」から「あたたかい居場所」へ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専用机を地区公民館内に配置する</li> <li>・子どもの居場所の開設</li> <li>・空き家・空き教室を活用した居場所づくり</li> <li>・1地区に複数（2つ以上）の拠点化</li> <li>・小学校区でのミニサテライト</li> <li>・なんでも相談室を雑談室に</li> </ul>

地区の風景



弥五郎どん浜殿下り行列

策定委員名簿 委員長 有川 俊一郎 副委員長 良 憲榮

No.	氏名	役職
1	有川 俊一郎	山之口地区社会福祉協議会会長・山之口地区自治公民館連絡協議会
2	良 憲榮	山之口地区社会福祉協議会副会長・山之口地区自治公民館連絡協議会
3	岡山 耕一郎	山之口地区社会福祉協議会副会長・山之口地区民生員委員児童委員協議会
4	連城 輝子	山之口地区社会福祉協議会事務局長・福祉協力員
5	三原 信一	山之口地区社会福祉協議会理事・山之口地区自治公民館連絡協議会
6	川畑 文夫	山之口地区社会福祉協議会理事・山之口地区自治公民館連絡協議会
7	西久保 五十六	山之口地区社会福祉協議会理事・山之口地区自治公民館連絡協議会
8	岡元 孝一	山之口地区社会福祉協議会理事・山之口地区自治公民館連絡協議会
9	山切 和昭	山之口地区社会福祉協議会理事・山之口地区民生員委員児童委員協議会
10	徳水 奈美	山之口地区社会福祉協議会理事・山之口地区民生員委員児童委員協議会
11	中村 千穂子	山之口地区社会福祉協議会理事・山之口地区民生員委員児童委員協議会
12	上徳 倫子	山之口地区社会福祉協議会理事・山之口地区高齢者クラブ連絡協議会
13	稲田 伸征	山之口地区社会福祉協議会理事・山之口地区身体障害者福祉会
14	黒葛原 武	山之口地区社会福祉協議会理事・山之口地区校長会(山之口中学校校長)
15	小濱 真樹	山之口地区社会福祉協議会理事・山之口地区PTA連絡協議会 会長
16	中元 美智子	山之口地区社会福祉協議会理事・山之口地区ボランティア連絡協議会
17	兒玉 幸代	山之口地区社会福祉協議会理事・高齢者総合支援センターきりしまセンター長
18	富森 恵一	山之口地区社会福祉協議会理事・あじさいの里 理事長
19	山下 留美	山之口地区社会福祉協議会理事・やまのくち保育所 所長
20	松永 照子	山之口地区社会福祉協議会理事・都城市山之口・高城地区地域包括支援センター
21	吉國 浩二	山之口地区社会福祉協議会理事・都城市山之口総合支所地域生活課
22	有川 和弘	山之口地区社会福祉協議会理事・福祉協力員
23	西園 加代子	山之口地区第2層生活支援コーディネーター